

夢を目指す皆さんへ贈るメッセージ



山根 弘

何でもデジタル化し、人とのふれあいが薄れて行くなか、この職業はダイレクトに人の温かみにふれあえる、素晴らしい職業です。

IGLは実践的な授業が多く、熱意ある指導者の授業、卒業後も同窓会主催の講習会や講演会からの深い学びなど、客観的に見ても、多くの魅力がある学校です。



さらには、卒業目前、国家試験の2か月前にお母さまが急逝。悲しみを乗り越え、国家試験に無事合格できたのも、卒業まで頑張り通せたのも、クラスメイト・先生方の手厚いサポートがあったからこそと、当時は振り返ります。

目標どおり、卒業後すぐにマンションの一室を借りて鍼灸院を開業。一期生ゆえに、先輩も、身近に相談できる人もいません。下積みなしの開業に、「無謀」「早すぎる」といった言葉も聞こえ、焦りと不安の毎日。患者様ゼロの日も日常的だったその頃、スポーツクラブ時代から懇意の1人の競輪選手が、身体を預けて下さいます。2人で治療法を考察、信頼関係が深まるにつれ、お弟子さんや友人、さらにはカープや巨人の選手までも紹介して下さるようになります。やがて他のアスリートや一般の方までその輪が広がり、現在までつながっています。



鍼灸師の仕事とは、患者様の身体を診ること。技術と知識を土台に、現在の山根さんはさらに、人を診るという想いを高めて治療に当たります。

治療は、1回1回の真剣勝負。患者様の身体を楽にさせたいという希望の裏には、身体的・精神的・生活習慣など、変調の原因となるその方の個々の背景があります。患者様の特徴を読み取り、さまざまな角度からアプローチ。治療後の「ありがと」「楽になった」の言葉をいただくため、できること、すべきことを模索する毎日です。



1 山根鍼灸院 院長
山根 弘さん
■鍼灸学科 2004年卒業 1期生

自分を頼ってくれる人の力になりたい。

鍼灸師の仕事とは、「患者様の身体を診る」こと。技術と知識を土台に、現在の山根さんはさらに、「人を診る」という想いを高めて治療に当たります。

高校卒業後、スポーツ医学関係の、国家資格取得学科のない専門学校に入学。2年生から広島東急スポーツオアシスにアシスタントスタッフとして勤務します。年配の会員さんたちに肩こり、腰痛、ひざ痛などの改善を勧めるトレーニングを担当。見よう見まねのマッサージやストレッチをとてもありがたがられ、感謝もされ、手ごたえを感じます。

そんな頃、リハビリに通われていた憧れのカープの選手を、運よく毎回担当することに。しかし、当時の知識と経験では、満足のいくサポートができず、山根さんは、悔しさ、やるせなさ、無力を感じます。

当時、プロ選手を診るトレーナーは、何かしらの国家資格を取得していました。24歳の山根さんは、広島に鍼灸・柔整の学校（IGL）ができるとの情報をキャッチ。自分を頼ってくれる人の力になりたい、もう一度、しっかり勉強して技術と知識を身につけ、自信をもってクライアントと向き合いたいと、迷うことなく受験、鍼灸学科一期生として入学します。

山根さんのプランは、卒業後即開業。年齢的にも学費は自分で工面する必要があり、アルバイトは必須でした。当時IGLは午後からの授業だったので、午前は鍼灸治療院でアルバイト、夜はスポーツクラブで11時まで仕事。3年間、フル回転の毎日でした。やること、覚えることは盛りだくさん、でもお金はギリギリ。何度もなくじけそうになりました。